



善久(Zenkyu)東日本後援会の皆様

いつもご支援いただきまして誠にありがとうございます。

先日、2年ぶりに後援会主催のコンサートをつくばカピオで開催していただきました。

多くの会員の方々にお越しいただけたことを心より御礼申し上げます。日頃、応援してくださる皆様に感謝の気持ちを込めて演奏させていただきました。いかがでしたでしょうか？

私を支えるスタッフ「善久組」は、バックバンド・舞台・音響・照明が一流の方ばかりで、ピアノの佐藤俊介さんをはじめ、スタッフが一致団結して色々なアイデアを出し合い舞台を制作しています。これは皆様に感動をお届けしたい一心で、毎回試行錯誤しながら舞台を続けさせていただいています。そして、後援会の役員の皆様には多大なご尽力いただき、本当に感謝の気持ちで一杯です。これからもご支援の程、よろしく願いいたします。

さて、去年はニューヨーク・ボストンで演奏する機会に恵まれました。とても魅力的なアメリカを実感することができました。そして、今年は、夢のような話の実現することになり、ニューヨークのカーネギーホール(アイザック・スターン・オーデトリウム＝大ホール)での演奏が決まりました。そして、後援会の方々や生徒の皆様、約60名とステージと一緒に立つことができます。20年間、オカリナを演奏し、指導させていただいた感謝の気持ちをカーネギーの舞台上で表現できればと思います。来年の会報でそのレポートが書けるのを今から楽しみにしています。

先日、5月26日と27日に福島県南相馬市の仮設住宅の集会所でボランティアのコンサートに行ってきました。2年前からボランティア活動を始め、今回で4度目の訪問となります。震災から3年4か月が過ぎましたが、南相馬にはまだ5000人以上の方が仮設住宅での生活を続けています。今年に入り、南相馬に来るボランティアが激減していると聞きました。今回、仮設の他に、初めて訪問した民間のデイケアセンターは、高齢者が沢山いらっしゃいましたが、ボランティアの演奏家がほとんど来ないと言っていました。オカリナの音色を聴いていると、顔つきが穏やかになり、歌を歌い始めると血色もよくなり、涙を流して喜んでくださる方もいました。5年ぶりに歌を歌ったという方もいらっしゃいました。別れ際に、皆さんが「星影のワルツ」を歌ってくださり、笑顔一杯いただき、その笑顔を忘れることができません。ボランティア演奏は続けることが大事だと実感しました。私は同じ日本人として、南相馬から仮設住宅がなくなるまでコンサートが続けたいと思っています。

そして、一昨年から引き続き、10月11日～13日に、福島県の猪苗代で、「野口英世記念 ばんだい高原国際音楽祭」に出演します。福島の復興を願う音楽家が集まり、ボランティアで演奏する大イベントです。海外からも演奏家が沢山参加しています。今年は「オカリナ塾」を開催予定で、講座の2日目に受講生が舞台上で演奏するという企画もあります。是非、皆様も聴きにいらしてくださいと嬉しく思います。

話は変わりますが、皆さんは「飛鳥Ⅱ」という豪華客船をご存知でしょうか？

12月初旬に(公益財団法人)日本野鳥の会の仕事で乗船することになりました。会長の柳生博さんと一緒です。那覇～台湾～石垣島というルートですが、客船内のホールでの演奏は初体験なのでとても楽しみにしています。この原稿を書いている翌日が、日本野鳥の会主催のランチコンサート「水の国、風の語らい」があり、目黒の八芳園で演奏させていただきます。

今年も色々な場所でオカリナを吹かせて頂きます。これからもご支援をよろしくお願いいたします。

善久(Zenkyu)